

第2回 空港除雪の省力化・自動化に向けた検討委員会 議事概要

- 日 時：令和8年3月18日（水）15:00～17:00
- 形 式：Web会議
- 議事概要

議事（1）令和7年度の取組み概要について

- 今年度の取組み概要について承知した。

議事（2）省力化の実現に向けた検討について

- 今回調査により、安全確認や作業補助が役割の助手がいなくてもワンオペ運用に支障がないことを確認した。今後、国管理空港において運転支援ガイダンスシステムを活用したワンオペ運用を進めていく。
- 運転支援ガイダンスシステムは車両更新などに合わせ他空港へ順次展開していく予定である。

議事（3）空港除雪に関する実態調査について

- 今回調査により良好なアンケートおよびヒアリング結果が得られ、各空港の個別課題と共通の運用方法等が整理できた点は評価できる。一方で、高齢化の進展および除雪に関する熟練技術の伝承が課題と認識した。
- 全ての熟練技術を伝承・自動化する必要はなく、一部でも自動化できれば労働力不足や伝承負担の軽減に効果が期待される。技術伝承の観点から整理・取りまとめを行い、今後の取組みに活かす必要がある。

議事（4）要素技術に関する実証実験について

- 実証実験内容について承知した。

議事（5）自動化の推進に向けた検討について

- 自動化範囲や検知対象物を限定することで、自動化システムが早期に実用化できる可能性もあるが、安全確保の観点から検知対象物を識別する技術の確立が必要であると認識した。
- 現地除雪作業者の高齢化が進んでおり、空港によっては5年・10年を待てない状況も想定される。技術開発と並行し、導入可能なものから早期に実用化を進めることが重要であり、短期・中長期の両面での検討が必要である。

議事（6）空港管理者取組み事例について

- 走行装置の自動化が進み、目に見える形での自動化が進展してきた点について関係者に感謝申し上げる。引き続き技術開発を進めていただきたい。
- 自動化と手動が混在する環境において、自動運転車両を識別できる仕組みが重要である。現時点では実証段階であり、具体的な識別方法の検討には至っていないが、空港制限区域内の自動運転車両については既に識別ルールがあるため、将来的にはこれに準拠して自動除雪車両にも適用することを想定する。

議事（7）今後の取組み概要について

- 今後高齢化が進む中、自動化技術を必要とする空港も多いと考えられるため、今後は実証・検討段階に加え、具体の導入に向けて5年後にどう進めていくのか大筋の方針を示す必要がある。

以上